

Corporate
Social
Responsibility
Report

2013

CSR報告書



顧客のニーズに応え、 人と環境にやさしい道づくり

発行目的

2007年から「環境報告書」を発行して、前田道路の環境関連への取り組みに関する情報をお伝えしてまいりました。今回からステークホルダーの皆様に対して、当社の事業活動における社会的責任について報告することを目的として、「CSR報告書」を発行することとしました。

報告対象組織

前田道路株式会社

報告対象期間

2012年4月1日～2013年3月31日

当該年度以外の内容も一部に掲載しています。

見通しに関する注意事項

本報告書は、前田道路株式会社の過去と現在の事実だけでなく、発行時点における計画や見通しにもとづく将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報にもとづく仮定ないし判断です。諸用件の変化によって将来の事業活動の結果や事象が予測と異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご了承いただきますようお願い申し上げます。

◇CONTENTS

トップメッセージ	4
会社概要	5
《特集》地域との共存をめざして	6
CSRマネジメント	8
・CSR経営	8
・コーポレート・ガバナンス／ コンプライアンス	8
・マネジメントシステムの推進	9
【社会性報告】地域社会との コミュニケーション	10
・東日本大震災における取り組み	13
【環境性報告】持続可能な社会のために	14
・2012年度 各部門の実績と評価	14
・CO ₂ 削減への取り組み	15
・環境に配慮した工法・技術	16
・省資源・資源循環の促進	17
・環境に配慮した取り組み	18
第三者意見	19

人と環境を大切にし、 社会に役立つ事業活動で貢献します。



代表取締役社長

磯 昭男

私たちを取り巻く環境は、経済のグローバル化や情報技術の革新により、日々変化し続けています。目まぐるしい変化の中で、地球温暖化やエネルギー需給の逼迫、自然災害の多発や高齢化社会の進展など様々な社会的課題が浮き彫りになってきています。

企業が事業活動を行うにあたり、様々な分野において社会の一員として担う責任は重くなってきています。

当社は、「道路」という重要なインフラ事業を担う企業としてCSRを基盤とした経営を推進し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

今、地球環境問題の深刻化が、世界共通の大きな課題となっておりますが、低炭素社会へ向けての取り組みについては、「人と環境を大切に事業活動」を推進するために、経営の理念、環境理念を定めています。

この理念のもと、道路建設という社会性、公共性の高い事業を行う企業として、以下の3項目を事業活動の柱としています。

1. 地球温暖化防止策としてCO₂排出量の削減
2. 循環型社会形成を目指したリサイクル事業の推進
3. 環境配慮型技術の開発

これらを複合的に組み合わせ、CO₂総排出量の削減を図り、環境負荷低減に取り組んでまいります。

当社は、東日本大震災発生以来、総力を挙げて被災地の復興に取り組んできました。本報告書では、その一部を報告しています。被災地の方々が平穏な日々を取り戻すことができる日まで、復興支援を継続していきます。

私たちの事業活動の原点は、社会の皆様からの信頼です。当社は「ブロック経営」を会社経営の根幹としております。これは地域社会に密着した経営体制であり、地域の人々と環境を大切に、信頼を勝ち得なければ事業は成り立ちません。

これからも社会からの信頼を最優先に、「安全、安心、良い仕事」で、安定した豊かな社会の構築に貢献し、信頼の絆をゆるぎないものにするのが当社の社会的責任を全うすることと確信しております。

今後も社会に役立つ企業として成長していくために、ステークホルダーの皆様方に当社の社会活動、環境保全活動の取り組みに、一層のご理解とご支援をいただくとともに、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

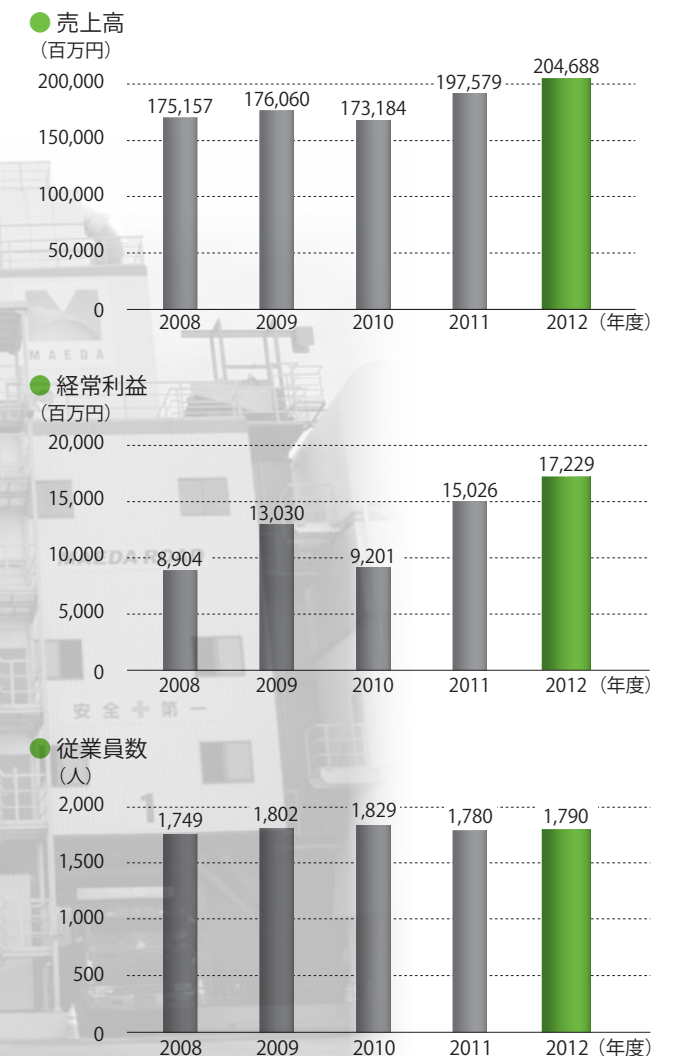
会社概要 (2013年3月現在)

事業概要

社 名	前田道路株式会社
本店所在地	東京都品川区大崎1丁目11番3号
設立年月日	1930年(昭和5年)7月19日
資本金	193億5,083万円
決算期	毎年3月31日
株式上場	東証第一部
従業員数	1,790人
建設業許可	国土交通大臣許可(特24)第2313号
主要な事業内容	1. 土木建築工事の請負、設計ならびに監督 2. 土木建築工事の諸材料の製作ならびに販売 3. 産業廃棄物の処理およびその再生製品の販売ならびに土壌浄化

全国の事業所

本 支 店	本店・北海道・東北・北関東・東京・西関東・中部・関西・中国・九州・北陸・四国
そ の 他	技術研究所・機械センター
事 業 所	4カ所
営業所・出張所	122カ所
総合材工場	2カ所
合 材 工 場	101カ所
破 碎 工 場	88カ所
乳 剤 工 場	12カ所



地域との共存をめざして

私たちの事業活動の原点は、社会の皆様からの信頼です。地域の人々とともに環境を大切に、安全・安心に寄与する地域貢献型の企業をめざします。

○災害時に対応できる設備を兼ねそなえた武蔵野営業所

東日本大震災は、災害に対する考え方を一変させました。当社は、全国各地に展開する営業所を、災害時には復旧活動の拠点とし、地域の方々の支援施設として運用するため、設備のリニューアルを推進しています。

その一例である武蔵野営業所は、建築基準法の1.5倍の耐震性を有しており、緊急時には近隣住民の避難受け入れを想定した作業員宿舎を併設しています。敷地内には環境に配慮した太陽光発電施設や電気自動車充電設備、さらに通常で使用する1ヵ月分のLPガスを貯蔵できるガス貯蔵槽が設置されており、災害時に必要な食料や水も備蓄しています。

今後、年間10ヵ所程度の整備を推進し、10年後をめどに全国の営業所、作業員宿舎のリニューアルを進め、地域貢献をかたちにしていきたいと思います。



作業員宿舎



武蔵野営業所全景（埼玉県新座市）



EV充電設備



備蓄した食料や水

○アスファルト合材工場のイメージを刷新 ～工場から店舗へ～

全国に設置されたアスファルト合材工場は、約100ヵ所あります。各工場には道路建設に必要な材料、重機、ダンプトラック、人員の全てが揃い、災害時にもいち早く対応できるのが特徴です。東日本大震災の際にも、アスファルト合材を提供し、被災地の道路で早期開通に貢献することができました。

また、これまでの合材工場というイメージを刷新し、工場の“店舗化”を全国各地に展開しています。

例えば受付内には、飲み物などを提供するコーナーを設置。工場に来ていただいたお客様のために、「くつろぎの空間づくり」を心掛けています。

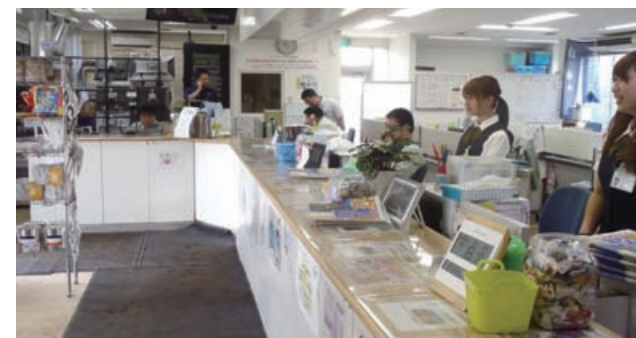
一方、従来は倉庫に置いて販売していた袋入りの常温



アスファルト舗装に関連した商品をラインナップ

合材や、舗装用資材、軍手などの備品も新たに受付内に取り揃え、お客様が購入し易い環境を提供しています。

合材工場は、災害時の復旧の拠点という側面だけではなく、高品質な製品をより早く、より安全に提供することで、これからも地域の方々に貢献していきます。



朝霞総合合材工場（埼玉県）の受付

VOICE

省エネ、復旧拠点で地域に貢献

北関東支店 武蔵野営業所／淵田 貴広



CSRの観点から地球温暖化対策は不可欠な課題となっています。武蔵野営業所は、太陽光発電を利用して同営業所で使用する電力を補うだけでなく、EV車とPHV車の充電に利用しています。また、全館LED照明とし、

窓には断熱性の高い複層ガラスを採用、省エネ効率の高い空調設備の導入と併せて環境に配慮した施設になっています。

このような設備の充実、職員の作業環境や福利厚生の上にもつながっています。

当社は地域密着で仕事をするのが基本。万が一災害が発生した際に役立つ設備が整っています。言葉だけではなく、地域貢献をかたちにしていきます。

Topics

『マイルドベース（中央混合方式高耐久路盤材）』の専用工場を新設

2012年10月、総武合材工場（千葉県船橋市）内に「マイルドベース」専用工場を新設しました。

マイルドベースは、セメントコンクリート発生材、アスファルトコンクリート発生材などの再生骨材にセメント、アスファルト乳剤を加えて製造した路盤材です。セメントによる「剛性」とアスファルト乳剤による「たわみ性」を有しており、耐久性にも優れた付加価値の高い路盤材です。

地盤の液状化低減にも効果が期待できることから、東日本大震災後、気仙沼地区においては、緊急車両用の道



マイルドベースを施工した現場

路工事で使用した実績があり、災害復旧にも貢献しました。

製造については、中央混合方式（＝工場での混合・出荷）を採用することにより、高品質な材料の安定供給が可能となりました。また同様の材料で施工する従来の路上再生工法に比べ、周辺環境への騒音や粉塵の影響を軽減することができます。

これらの特徴により、今まで施工が難しかった都市部や夜間の出荷にも対応できるようになりました。



マイルドベース専用工場（総武合材工場内）

CSRマネジメント

持続可能な社会の発展のため、全てのステークホルダーの皆様と誠実に向き合い、オープンで公正なコミュニケーションを通じて、皆様の期待に応えていくことを目標にしています。



経営の理念

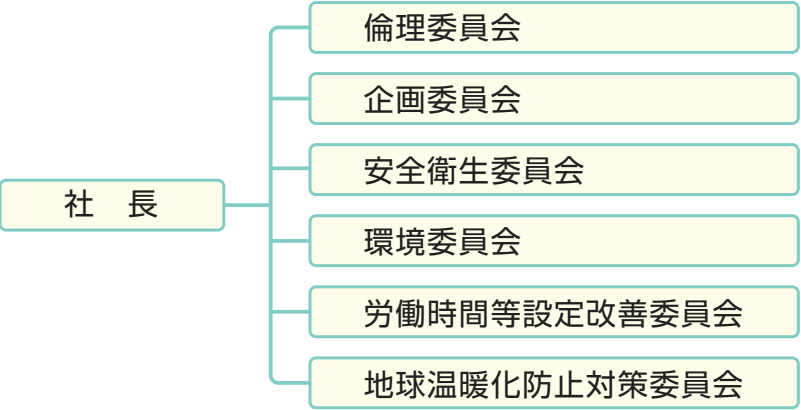
わたしたちは、ひろく社会資本の整備に貢献し、地域社会の豊かな生活の向上に寄与することを企業活動の使命と自覚する。信義・誠実の原則のもと誇りと責任をもって、人と環境を大

切にした事業活動を推進し安全を第一として、より優れた技術と品質の提供により快適で潤いのある生活空間の創造を目指し、もって豊かな地域社会の発展に貢献する。

CSR経営

様々な視点から6つの各委員会において、CSR活動を推進しています。「遵法」を最優先課題とし、コンプライアンス・リスクマネジメントを徹底した事業活動を通じ、企業の社会的責任を果たします。またそれぞれのステークホルダーとの繋がりを尊重し、持続可能な企業づくりを目指しています。

CSR推進体制



コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス

コーポレート・ガバナンスについては、株主をはじめ取引先、従業員および地域社会を含む全てのステークホルダーの利益を考慮しつつ、継続的に企業価値を高めていく手段であると考え、経営上の最重要課題の一つと位置づけています。

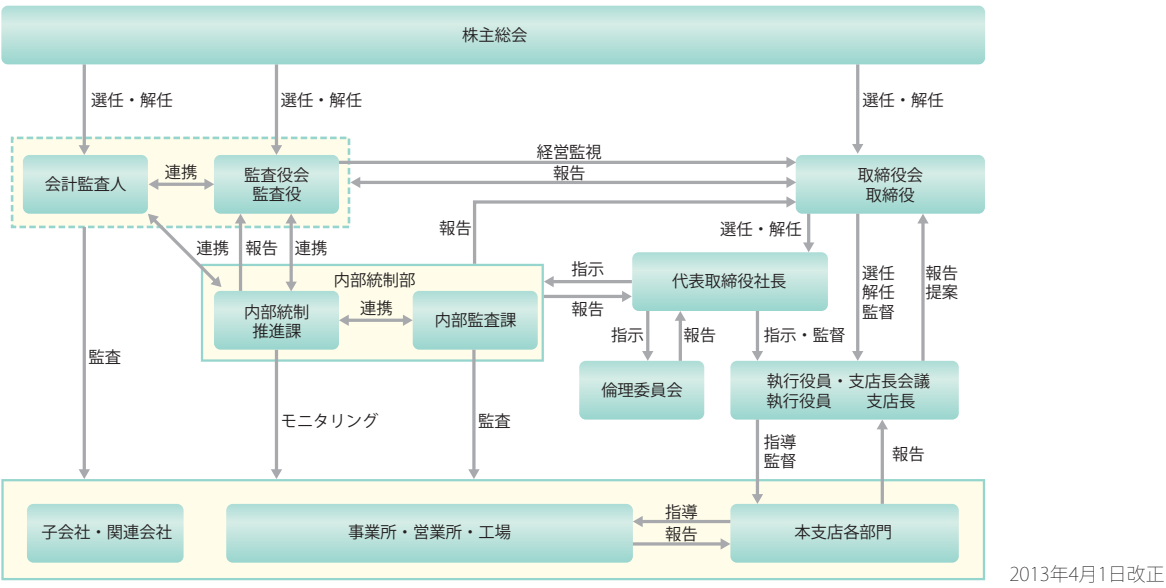
コーポレート・ガバナンス体制

経営責任を明確にし、経営の意思決定・監督機能の強化を図ると同時に業務の執行機能を強化するため執行役員制度を採用して、それぞれの役割が有効かつ効率的に実施される体制を構築しています。また、経営の健全性の維持と環境の変化に迅速に対応するため、取締役および執行役員の任期を1年としています。

監査役会は、3名の社外監査役を含む5名で構成されており、取締役の職務の執行状況を監査し、経営の監視を行っています。

また内部監査および会計監査人の監査業務にも立ち会い、監査業務の徹底と推進を図っています。3名の社外監査役は、弁護士、公認会計士および大学教授であり、それぞれ企業法務、企業会計および生産環境工学の専門家としての幅広い知識と豊富な経験によって、独立した立場から当社の監査業務を遂行しています。

コーポレート・ガバナンス構成図



内部統制

内部統制を徹底し適正な業務執行を確実にするために、内部統制部が全社的なリスク管理の実施状況および内部統制の有効性・効率性について、定期的にモニタリングを実施し、評価しています。また、内部統制部が内部監査として会計監査および業務監査を実施し、2012年度は全11支店・37営業所・20工場の監査を行いました。

コンプライアンス

事業活動の適正化を推進するため、本店および支店に倫理委員会を設置するとともに前田道路倫理綱領を定めています。社長は、内部統制部からの報告を受け、必要に応じて重要事項について委員会に諮りその対応を決定します。倫理綱領は、①経営の理念 ②行動規範 ③安全確保・環境改善 ④法令遵守 ⑤決算の適正性の確保の5項目から成っており、これを基に管理者研修、社内集合研修や諸会議の場を通じ全ての従業員を対象に啓蒙活動を行っています。

2012年度は、コンプライアンス教育を社内集合研修、全支店での内部統制研修として35回実施しました。アンケート形式

による第5回コンプライアンス実態調査を行い、全事業所での業務の健全性、関連法令の理解度・浸透度の把握に努めました。また、環境法規制に対応して営業所・合材工場を対象とした巡回点検・環境パトロールや内部監査等で監視を行い、適切な処理が行われるよう努めています。



環境パトロールの様子

マネジメントシステムの推進

「顧客のニーズに応え、人と環境にやさしい道づくり」を全社基本方針として、*品質 (ISO9001)、環境 (ISO14001)、*労働安全衛生 (OHSAS18001) の各マネジメントシステムを運用しています。環境マネジメントシステムはこれまで支店毎に運用していましたが、全社統一システムを構築し2012年10月に認証を取得しました。人と環境にやさしい事業活動を目指し、産業廃棄物問題をはじめ、資源・エネルギー問題における環境保全活動を事業活動のあらゆる場面で採り入れながら、持続可能な社会の構築に向けて積極的に取り組んでまいります。

※ISO9001；本支店毎認証、OHSAS18001；6支店認証

地域社会とのコミュニケーション

会社としての原動力である「地域に密着した経営体制」を事業活動だけではなく、私たちが暮らす地域社会にも、広く役立てたいと考えています。そうした中での様々な取り組みを紹介させていただきます。



○「しながわCSR推進協議会」に加盟

2012年4月に、「しながわCSR推進協議会」に加盟しました。この協議会は、区民(企業)と区との協働で「私たちのまち」品川区をつくるという理念に基づき、企業の社会貢献活動を推進することを目的に、2010年度に発足しました。

当社は、これまでも様々な活動を通じて、社会貢献活動を行なってまいりましたが、この協議会への加盟を新たな起点として、



しながわCSR協議会が主催した清掃美化活動

人と環境を大切にし、社会に役立つ活動をさらに継続していきます。

2012年10月24日、「しながわCSR推進協議会」による清掃美化活動が実施され、当社も参加しました。当日は、予想以上にゴミが集まり、活動の必要性を実感することとなりました。近隣住民の方々から暖かい感謝の言葉をいただくこともあり、すがすがしい気持ちで活動することができました。



清掃美化活動に参加した本店有志たち

○「社会福祉法人 品川区社会福祉協議会」にカレンダーを寄付

「(福)品川区社会福祉協議会」は、地域福祉の充実を図るため、地域が主体となって組織された民間の団体です。

本店がある品川区で暮らす方々のお役にたてるよう2012年12月、カレンダーの寄付をさせていただきました。

このカレンダーは、「(福)品川区社会福祉協議会」を通じて、ひとり暮らしの高齢者や要望のある福祉施設・ボランティア団体等に配布され、活用していただいています。



(福)品川区社会福祉協議会からいただいた御礼状

○事業継続計画（BCP）の認定

2012年10月、大規模災害を想定した事業継続計画(BCP)を策定し、国土交通省関東地方整備局より認定をいただきました。

これは、当社および協力会社の社員およびその家族の生命と安全の確保ならびに、自社で施工している現場の被害状況の把握と二次災害の防止に努めることを目的とし、また、被災道路復旧等の社会的要請や民間施設、周辺地域からの救助要請に応えることを基本方針としています。



BCPの認定証



避難訓練でのAED講習

○地元の方々とのふれあい（東九州道森崎地区舗装工事）

本工事は、佐伯市蒲江IC～延岡市北川IC間の延長26.2kmのうち、森崎地区で蒲江ICのアスファルト舗装工事と、葛原南工区では、トンネル内のコンクリート舗装工事を施工しました。

工事期間中は、静かな土地に多くの大型工事車両を通行させなければならず、地域への配慮をしながら工事を進めることが重要な課題でした。その一環として、地元小学校のプール清掃、通学見守り隊、運動会前のグラウンド整備、働く自動車の見学会、中学生に舗装体験、開通前のウォーキングなど、たくさんのイベントを企画しました。



子どもたちを前にアスファルト舗装について説明中



自分たちの背丈よりも高いカラーコーンを見て、はしゃぐ子どもたち



現場見学会では、施工後間もない舗装の表面が、まだ温かいことに興味津々の様子



小学校でのプール清掃活動をお手伝いさせていただきました



地元の小学校で開催されたおまつりに招待され、感謝状をいただきました



中学生たちが参加した見学会では、排水性舗装の機能を体験してもらいました



開通前のウォーキングを企画し、たくさんの方々に参加していただきました

VOICE

地域に貢献できる土木の力を再認識

九州支店/鈴木 清孝



豊かな山ときれいな海に囲まれた佐伯市蒲江町は海釣りのメッカとして大変有名な場所です。静かな土地を多くの工事車両が通行するため、地域の皆さんに対して大きな負担となります。

そのため、工事関係者が積極的に地域の皆さんと交流を持つことで少しでも相互理解が進み、地域への負担が少なくなればと思い、さまざまなイベントを実施しました。小学生のうれしそうな笑顔や、中学生の興味津々な眼差し、開通時のうれしそうな住民の皆さんなど、思い出深い出来事ばかりでした。現場を引き上げるときに、地元の区長さんより、送別会をご自宅で開催いただいたことは本当にうれしく思いました。



○ ペットボトルキャップの収集活動

2012年度も引き続き、「NPO法人Reライフスタイル※」が行うペットボトルキャップの収集活動に参加しています。

集められたペットボトルキャップは、樹脂メーカーに引き取られ、その対価が「認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会（JVC）」を通じて世界の子どもたちにワクチンが届けられます。ペットボトルキャップをリサイクルすることによって、ワクチンを贈るという活動です。

※「NPO法人Reライフスタイル」についての詳細は、Webサイトからご覧ください。
<http://www.re-lifestyle.com/>



本店内で集められたペットボトルキャップ

○ 「移動パン工房」による販売

2010年11月から2012年12月まで、「移動パン工房」による販売を本店前にて実施しました。これは、「特定非営利活動法人 フリージア」が、養護学校等、学校教育課程修了後の障がい者の方たち、および中途障がい者の方たちのために、就労支援を目的とした職場づくりに関する事業の一環として、行なっていたものです。毎月1回、お昼時に社員・近隣の方々に購入していただきました。



本店玄関前での販売の様子

従業員とともに

・健康増進(心とからだ)の取り組み

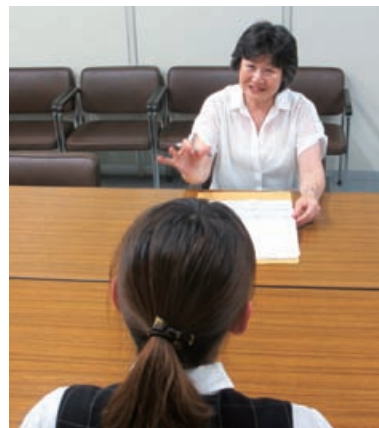
からだの健康管理は、労働安全衛生法に則した定期健康診断を基本とし、健康保険組合の協力により35歳以上の従業員については、生活習慣病検診を行っています。各検診で、再検査が必要な者については、法定検診分は会社にて負担をし、早期発見と早期治療を目指しています。心のケアについては、年1回全従業員に対し、保健師の面談を行い、きめ細かな検診が出来るよう配慮しています。

・高齢者、障がい者雇用の推進

健康で、働く意欲のある定年退職者が長年培った経験や専門知識を活かし、若年者への技術を伝承する事を目的とし、満65歳迄の再雇用制度を導入しています。

障がい者の雇用については、法定雇用率(2.06%)の達成を目指しています。2012年6月1日現在の雇用率は1.85%となっています。

※法定雇用率2.0%は、2013年4月1日時点の数値です。



保健師との面談の様子

東日本大震災における取り組み

東日本大震災発生以来、被災地の復興に継続して取り組んできました。被災地の方々が平穏な日々を取り戻すことができる日まで、復興支援を続けていきます。

● 消防ポンプ車の寄贈

気仙沼市では、ほとんどの消防自動車が被災し使用不能となり、他県の廃車予定だった消防自動車を譲り受けて使用しているのが現状でした。長年にわたり営業所および合材工場がその営業拠点としてお世話になってきた気仙沼の復興支援として、消防ポンプ車1台とRV車3台を寄贈しました。



気仙沼・本吉地域広域事務組合消防本部に寄贈した消防ポンプ車

● 新入社員研修でボランティア活動

新入社員研修の一環として被災地に赴き、がれき撤去やアスファルト舗装などのボランティア活動を行っています。被災地の現状をテレビなどを通してではなく、自分の目で直に見ることで、様々なことを学んで欲しいと考えています。



被災地での新入社員研修の様子

● ライフジャケットの贈呈

震災被害に遭われた方々への支援として、東日本大震災復興支援グループ「きぼう」は、被災地にライフジャケットの配布を推進しています。当社は、同グループ「きぼう」の活動に賛同しています。



ライフジャケットを受けとられた方々からのお礼状

● 復興支援グッズの販売支援

震災復興に携わってきた中で、仮設住宅に入居されている方々が、復興支援グッズをハンドメイドで製作されていることを知りました。製作された方々に少しでも貢献できるように、復興支援グッズの販売を各地で支援しています。



ハンドメイドの復興支援グッズ

持続可能な社会のために

人と環境にやさしい事業活動を目指し、産業廃棄物問題をはじめ、資源・エネルギー問題における環境保全活動を事業活動のあらゆる場面で採り入れながら、持続可能な社会の構築に向けて積極的に取り組んでいます。



環境理念

わたしたちは、『経営の理念』の精神に則り、環境問題を企業の社会的責務の中の重要な課題と認識し、『人と環境にやさしい道づくり』のスローガンのもと、環境への負荷を

低減し持続的発展が可能な社会を形成することに貢献すべく、環境への配慮を組み入れた事業活動を展開する。

2012年度 各部門の実績と評価

2012年度における環境行動計画の実績は、下記の通りです。2012年度実績の評価を基に設定した2013年度目標を達成するために、環境保全活動のさらなる改善を継続的に取り組んでいきます。

環境行動計画と目標（2012年度実績と評価）報告

環境目的	対象部門	2012年度目標	コメント（進捗状況）	結果	評価	2013年度目標
CO ₂ 排出量の削減	製品部門	バイオマス燃料使用工場新規5工場	バイオマス燃料使用工場を5工場目標としましたが、4工場の設置になりました。2013年度は、バイオマス燃料が供給できる地域での設置を進めていきます。	4工場設置		バイオマス燃料使用工場新規5工場
		ハイブリッド油圧ショベル10台導入	中小規模工場の入替が遅れ7台の導入になりました。2013年度も10台の導入を目指します。	7台導入		ハイブリッド油圧ショベル10台導入
	工事部門	ECOモードフィニッシャー10台導入	目標の10台は達成できませんでした。2013年度は10台の導入を目標とします。	6台導入		ECOモードフィニッシャー10台導入
	オフィス部門（本支店）	前年度比5.0%削減（オフィスの使用電力量）	節電への取り組みを継続して行っていましたが、各支店への周知が徹底していなかったため、オフィス部門としての使用電力量は、2.8%の増加となりました。	2.8%増加		前年度比5.0%削減（オフィスの使用電力量）
リサイクル資材の有効利用	製品部門（合材工場）	前年度比3.0%増加（再生品の製造）	震災復旧が行われている東北支店管内を除くと、製造数量は、ほぼ前年並となりました。東北地区を含めた全国平均では、前年比1.9%の増加になりました。	1.9%増加		前年度比3.0%増加（再生品の製造）
オフィス廃棄物の削減	オフィス部門（本店）	前年度比6%削減（事業系一般廃棄物）	各フロアのゴミ置場にゴミを分別する表示を貼り出し、特に紙くずなどの一般廃棄物の削減に取り組みました。2012年度は、20.5t（対前年1.5%削減）となりました。	1.5%削減		前年度比6%削減（事業系一般廃棄物）
環境に配慮した工法の提案営業	技術部門	提案件数60件（環境に配慮した工法）	雨水流出抑制等の防災・減災システムの提案をはじめ、社会のニーズに沿った提案を積極的に行い、目標を達成しました。	60件		提案件数60件（環境に配慮した工法）
環境に配慮した工法の受注確保	技術部門	受注率50%（提案件数比）	環境関連工事が低調傾向にある中、導入の効果を積極的にアピールし採用に至ったケースも多く、今後も引き続き投資効果のアピールと価格の見直しも進め、環境工法の受注拡大に努めます。	45%		受注率50%（提案件数比）
環境に配慮した工法の研究開発	技術部門	技術開発件数2件以上	・段差修正材「スマートパッチ」 ・熱環境改善型景観舗装「御影石風ベアコートW」	2件		技術開発件数2件以上

達成

概ね達成

あまり達成できなかった

達成できなかった

CO₂削減への取り組み

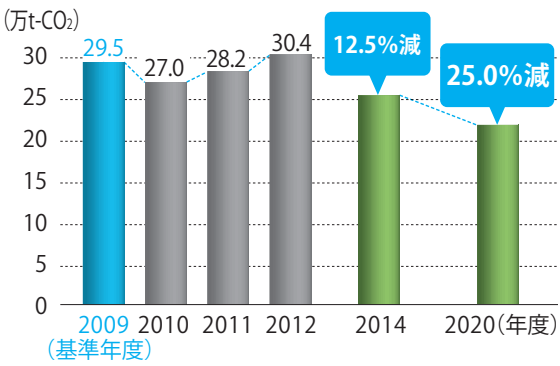
削減目標

エネルギー使用量削減に係わる中長期計画に基づき、CO₂削減目標を設定しました。

排出するCO₂の98%は、アスファルト合材や再生路盤材等の舗装材製造に起因するものであることから、特に合材工場におけるCO₂排出量の削減を中心に取り組んでいます。主な取り組み内容については、次頁以降に紹介します。

削減目標	2014年度 対2009年度比 12.5%減 2020年度 対2009年度比 25.0%減
排出基準	2009年度 CO ₂ 排出量 294,678t
対象エネルギー	道路舗装材製造に係わるエネルギー、工事・製品・管理部門のオフィスに係わるエネルギー（舗装材運搬の車両燃料は含みません）

CO₂排出量の推移と目標



2012年度も使用燃料のエネルギー転換等で削減に取り組んでまいりましたが、前年度同様にアスファルト合材製造が増えたために、CO₂総排出量が前年度を上回る結果となりました。

2012年度／各種燃料の使用量とCO₂排出量

2012年度、各種燃料のCO₂排出量については、各エネルギー毎のCO₂排出係数により算出（環境省資料より引用）し、電力については、当該電気事業者の実排出係数から算出しました。

A重油	灯油	軽油	都市ガス	LPGガス	電力
66,097kℓ	3,434kℓ	8,933kℓ	14,168千m ³	191t	119,809千kWh
CO ₂ 排出量 304,420t - CO ₂					

オフィスの廃棄物の削減

本店では、ビル内で発生する事業系一般廃棄物を削減するため、ゴミの分別方法を分かりやすくした掲示に変更しました。中でも紙類などは、これまで可燃ゴミとして処分していましたが、新しい掲示によって、可能な限り再利用できるよう意識を変えていくことで、廃棄物の削減に取り組んでいます。



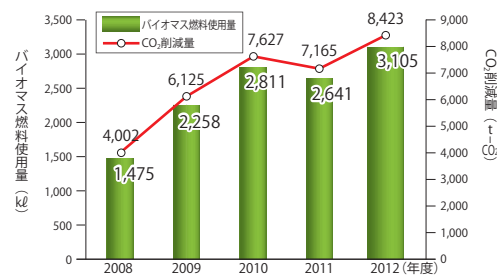
ゴミの分別を周知する掲示



環境に配慮した工法・技術

○ バイオマス燃料の活用（木くず・木質タール・グリセリン）

2007年度から、アスファルト合材製造に必要な化石燃料の代替として、バイオマス燃料（木くず・木質タール・グリセリン）を活用してきましたが、2012年度は、約3,100kℓを10工場（既設6工場、増設4工場）で利用しました。その結果、10工場でCO₂を約8,400t-CO₂削減することができました。木くずは東京総合合材工場に設置してある「木質バイオマスコージェネレーション施設※」を介して、同工場の熱および電気エネルギーを供給しています。

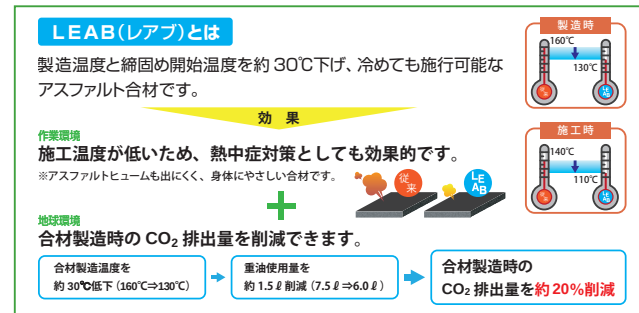


○ LEAB混合物の開発（夏期の作業環境の改善、冬期の施工性の向上）

2011年に、アスファルト合材の製造および施工温度を30℃程度低減することができる「施工性改善型アスファルト合材（LEAB：レアブ）」を開発しました。

「LEAB」は、製造温度を低減させて出荷することにより、燃費削減に伴うCO₂排出量の削減や、合材から発生するアスファルトヒューム※が出にくいことはもとより、通常の合材より低い温度でも作業性を確保することができます。

これにより夏期は、熱中症対策に効果が期待できるとともに、冬期は、気温が低く合材が冷めやすい時期でも安心して施工することができます。



※「アスファルトヒューム」とは、アスファルト合材から発生するアスファルトの蒸気です。

○ マイルドベースの開発（路盤強化で道路交通振動を抑制）

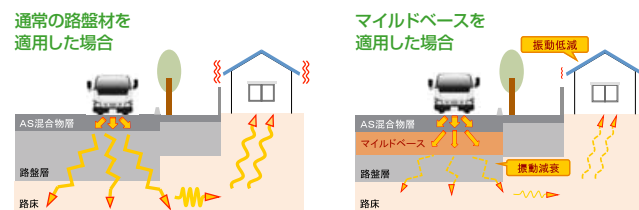
道路交通振動の抑制は、自動車騒音とともに沿道環境対策の一環として取り組むべき重要な課題です。この振動を抑制する方法の一つとして舗装体の剛性を向上させることが挙げられ、特に路盤層の強化を図ることは効果的です。

2011年に開発したマイルドベースは、セメントによる高い剛性とアスファルト乳剤による適度なたわみ性を兼ね備えた材料であり、開発段階で行った大型の振動実験装置による検証でも、他の路盤材料と比べて振動を加えた時の耐久性に優れていることが実証されました。

2012年は、このマイルドベースを道路交通振動の抑制対策として上層路盤層に適用しました。施工後に大型車を走行させて振動を測定したところ5～11デシベルの振動レベル低減効果を

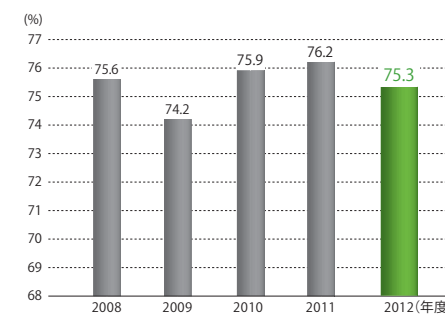
確認できました。このように、上層路盤層にマイルドベースを適用することで、路床に伝わる振動が減衰し、民地等へ伝わる振動を低減できると考えられます。今後、マイルドベースの道路交通振動抑制効果をさらに検証し、沿道環境の改善に寄与していきます。

● 道路交通振動の抑制メカニズム



省資源・資源循環の促進

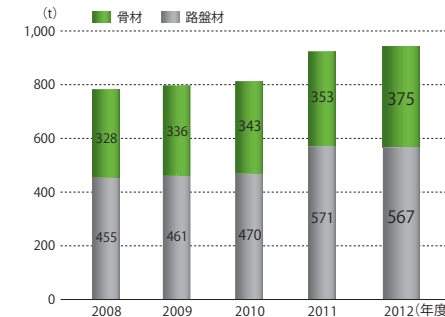
○ 再生アスファルト合材 製造比率の推移



全アスファルト合材製造数量（新規・再生）における再生アスファルト合材の製造比率は、年々増加傾向にありましたが、2012年度は震災復興での新規合材の需要が増えたことにより、前年度に比べて、比率が僅かに下がりました。

再生アスファルト合材工場では、使用する再生骨材の生産能力を上げるため、設備の能力アップと品質管理を徹底し、工場の周辺環境に十分配慮しながら再生アスファルト合材の製造に取り組んでいます。

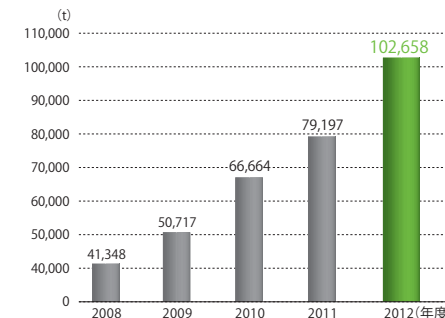
○ 建設副産物のリサイクル状況



循環型社会の形成に向け、建設現場で排出される建設副産物のうち、再生資源として有効利用できるアスファルト塊やコンクリート塊などのがれき類を受け入れて、リサイクルしています。

それらのがれき類を再生骨材、再生路盤材として製品化し、全国の合材工場で再生アスファルト合材、再生路盤材として製造・販売し、再資源化への取り組みを推進しています。

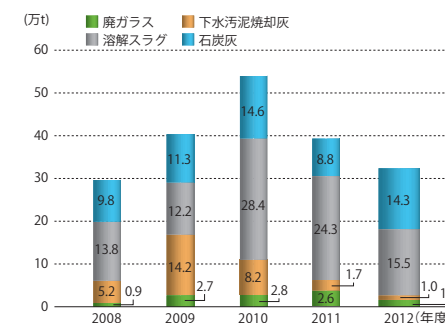
○ ウォームミックス（中温化合材）の出荷数量



アスファルト合材の中温化技術には、製造時に特殊添加剤を加える「プラントミックスタイプ」と、アスファルトにあらかじめ特殊添加剤を加えてある「プレミックスタイプ」があり、混合温度を30～40℃低減させることができます。この技術を用いることにより、骨材の加熱乾燥に必要な燃料の消費量を抑えることができるため、CO₂排出量を最大25%削減できます。

当社では、この中温化合材を高速道路や一般国道などの大規模な工事で積極的に採用しています。

○ 他産業副産物入りアスファルト合材の出荷数量



他産業で発生した廃ガラスなどの副産物を受け入れ、性状を確認した上でアスファルト合材の材料として活用しています。

他産業副産物の受け入れについては、2011年度以降、東日本大震災の影響等でいくつかの制約が生じていますが、今後も資源循環型社会の構築に寄与できるように、限られた資源の有効活用を積極的に推進していきます。

環境に配慮した取り組み

太陽光パネルの設置

環境に配慮した取り組みの一つとして、太陽光発電設備を新築の事務所(武蔵野・世田谷・知多)の屋上に設置することを推進しています。

平常時には、電気自動車向け充電設備の電源としたり、各事務



世田谷営業所(東京都)

所の消費電力を3分の1ほどまかなうことができます。

今後も、日常的な環境保全活動以外に、災害時の電力供給にも役立つよう順次導入して地域貢献をかたちにしていきます。



知多営業所(愛知県半田市)

展示会やフェアへの出展

当社では、毎年各地で開催される様々な建設関係の展示会やフェアに積極的に出展しています。2012年度は、東京ビッグサイトで開催された「ハイウェイテクノフェア2012」や、仙台で東日本大震災後、初めて開催された「EE東北'12」など、各地の展示会やフェアには、開発した技術を多数出展しました。内容としては、「マイルドパッチ※」、「マイルドベース」や「バイオマス燃料」といった地球環境および沿道の環境に配慮した技術が多く、来場された方々に、環境に対する取り組みを紹介させていたできました。

※「マイルドパッチ」・・・水との反応により硬化する袋詰め常温アスファルト合材。雨天時や水たまり箇所での施工も可能で、従来の製品と比べ高い耐久性が得られます。



ハイウェイテクノフェアに出展したブース

VOICE

震災後、初の開催となりました

東北支店 製品部／原田 真理

「EE東北'12」は「世界が驚く復興目指せ！新技術が築く未来の東北」をキャッチフレーズに、2012年10月24日と25日の2日間、仙台市の「夢メッセみやぎ」で2年ぶりに開催されました。

復興元年という事もあり、復旧復興工事、免震・耐震、災害廃棄物処理技術・除染技術に関する出展や初参加の企業も多くある中で、実際に津波被害に遭った作業車輛の展示が印象的でした。

東北支店からもこの展示会に、「マイルドベース」のプレゼンテーションをはじめ、「マイルドミックス」、「バイオマス燃料」による低炭素アスファルト合材（仙台合材工場にて稼働中）、「マイルドパッチ」について出展しました。

特に「マイルドパッチ」は、水で固まる常温合材という事で、興味を持たれる行政・企業の方や、製造時のCO₂排出量を削減するバイオマス燃料（グリセリン）について熱心に聴いている学生の方もいらっしゃいました。

これからも震災の記憶を風化させる事なく、このような環境に配慮した新技術を活かし、被災地の復興に役立てて欲しいと思います。

第三者意見



関東学院大学
経済学部経営学科
教授 小山 厳也

前田道路は、これまで『社会・環境報告書』という名称で報告書を発行してきましたが、今年度から『CSR報告書』とこれを改め、再出発することになりました。ここには同社の強い思いが込められていると見ます。

CSR経営をふまえた『CSR報告書』へ

この報告書ではCSRが重要な経営基盤になることが明示され、自社を取り巻くステークホルダーの存在が強く意識されるようになりました。具体的に内容を見てみると、何よりもまず環境に配慮した諸技術に目が向きます。例えば、CAE工場については、製造物であるマイルドベースはもとより、工場自体にも優れた技術が隠されていることがわかります。また、バイオマス燃料の活用、LEAB混合物の開発などそのほかの工法・技術も素晴らしい。そうしたことが「環境行動計画と目標（2012年度実績と評価）報告」での技術部門の高評価につながっていると見ています。

また、東日本大震災という未曾有の大災害を受けての諸活動にも注

目ができます。1つめは、継続的な被災地への支援活動です。インフラ整備事業を展開する会社だからできる活動に加えて、被災地の皆さんに寄り添うような活動も行われています。2つめは、災害時の活動・支援拠点となる営業所です。この報告書では武蔵野営業所の事例が紹介されています。災害時には何よりもまず、ライフラインの確保、インフラの復旧が求められますが、そうした活動が迅速に行えるような体制が整っているだけでなく、地域住民への支援にも対応できるような仕組みも整備されています。前田道路のこうした取り組みは高く評価できると思います。

優れた活動はもっと詳しく丁寧に

しかし、残念ながら、素晴らしい活動が十分に伝え切れていないように感じられました。

例えばCAE工場は、すごい技術を有しているのですから、もっと詳しく丁寧に紹介することで、一般の方でもそのすごさが理解できると思います。「アスファルト合材」という言葉も、一般の方にはそれがどのようなものであるのかわかりませんから、言葉の解説や丁寧な説明があった方が良いでしょう。報告書の読み手を意識して制作することで、より読みやすい冊子になると思います。

また、マイルドベースは近隣の住民の生活環境を大幅に改善する可能性を持つ製品です。別ページでは千葉県の施工事例が記載されていますが、振動問題との関係性など、詳しい説明があれば、より理解が深まると思います。

東九州道森崎地区との交流活動も、取り組みの全体像を写真等を主体として説明してありますが、地域住民の声やこれ以外の地域での活動の存在も紹介すると、より良いと思います。

さらなる発展のために

報告書の改善点として以下のものを挙げることができます。

第1に、会社概要の部分です。事業活動が一般の方にもわかるように、より具体的に記載することも必要でしょう。

第2に、CSR経営の中身を詳しく説明してほしいということです。コンプライアンスやリスクマネジメント、内部統制の関係性について、またコンプライアンス活動や各種委員会の活動内容についても、具体的に紹介してもらえれば、一般の方にも読みやすく、理解しやすいものになると思います。

第3に、ステークホルダーを意識して記述してほしいということです。どのステークホルダーについて述べているのかが明確でない部分

も多く見受けられます。また、従業員についての記述は、もう少し増やした方が良いでしょう。『CSR報告書』の重要な読み手は従業員と将来の従業員たる学生です。

第4に、「環境行動計画と目標（2012年度実績と評価）報告」において、未達が多いということです。なぜ達成できなかったのかの分析が必要です。

以上、色々と述べてきましたが、誠実な『報告書』だと感じました。そうした姿勢で、前田道路のCSR活動がさらに進展していくことを期待したいと思います。

編集後記

2007年から発行を始めた「環境報告書」は、一昨年「社会・環境報告書」となり、さらに今回から「CSR報告書」とタイトルを改め、7冊目の発行となりました。

内容としては、これまで続けてきた活動を主に紹介していますが、「社会性報告」と「環境性報告」の2つの分野を明確にして、編集を行いました。

持続可能な社会づくりには欠かせない道路建設による社会基盤の構築や、「ブロック制」という経営体制に基いた地域社会との繋がりによって、「CSR＝企業の社会的責任」を果たして来たという自負を、この企業に勤める一人ひとりが、心に秘めていると確信しています。

今後は、組織としてのCSR活動を体現するスキームにより、さらに充実したCSR活動を推進していくことが課題だと考えています。

最後になりましたが、本報告書の発行にあたりご協力いただきました皆様方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

お問い合わせ
前田道路株式会社
総務部
〒141-8665
東京都品川区大崎1丁目11番3号
TEL：03-5487-0017
FAX：03-5487-0010
URL：http://www.maedaroad.co.jp

【発行】2013年11月(次回発行予定2014年11月)

